

令和4年度小松島市事務事業評価シート

■事業の位置づけ（基本事項）

担当課係 保険年金課 医療・年金担当

事務事業名	子どもはぐくみ医療費助成事業		事業予算費目		
総合計画上の位置付け	政策	①ひとりひとりが輝けるまちづくり	款	3	民生費
	基本目標	1-1 子育てしやすいまちづくり	項	3	児童福祉費
	基本施策	1-1-1 児童福祉・子育て支援の充実	目	4	乳児医療費
	主要施策	1-1-1-1 子育て支援・環境の充実	事業	1	子どもはぐくみ医療費助成事業

■事務事業の概要（PLAN）

事業の目的	子どもの早期の受診機会の確保、重症化の予防及び子育て世帯の経済的負担の軽減を図るため、医療費の保険診療に係る自己負担分を助成する。	事業の内容	子どもの医療費の自己負担分について、現物給付又は償還払いにより助成を行う。これまで15歳未満を対象としていたが、子育て世帯の経済的負担の軽減のため、令和4年10月より18歳未満まで対象年齢を拡大して実施している。
-------	---	-------	--

■事務事業の業績・推移（DO）

成果指標	指標名	単位	実績		目標	目標	
	助成件数		R3	R4	R5	R6	
医療機関等からの請求に基づき、医療費を助成した件数	指標の説明	件	目標				
	実績		47,597	47,235			
関連事業費	R3年度決算		R4年度決算		R5年度予算		市民一人あたりのコスト
	財源内訳	事業費	93,449,923	95,984,598	114,000,000	R3	2,548
		国県支出金	44,166,000	42,717,000	50,000,000	R4	2,657
		地方債				各年度4月1日現在の人口	
		利用者負担・その他				R3	36,670
一般財源	49,283,923	53,267,598	64,000,000	R4	36,124		

■評価（CHECK）

事業の方向性	○	拡充	縮小して継続	判定理由	子どもの早期受診機会の確保と少子化対策としての子育て世帯の経済的負担軽減の両方を推進する重要な事業であるため、今後も継続していく必要がある。
		改善・効率化し継続	休止・廃止		
		現状のまま継続	完了		

■改善・効率化の方向性（ACTION）

今後の課題	対象年齢の拡大で、対象者が増えることにより事務量が増加するため、事務の効率化や整理が必要である。また、様式の改正や電子申請の検討など、申請しやすい環境の整備も課題となる。
今後の方向性	今後も継続していかなければならない事業である。他の医療費助成制度と重複する場合や、払い戻しの対象となる医療費があるなど、制度の利用方法の周知のほか、事務量増加に対応するための事務の効率化や、申請しやすい環境の整備について検討する。